

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名				
○保護者評価実施期間	2025年 5月 23日		～	2025年 7月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	5
○従業者評価実施期間	2025年 7月 1日		～	2025年 7月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数)	1
○訪問先施設評価実施期間	2025年 6月 15日		～	2025年 7月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	8	(回答数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 7月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていること。	基本的に訪問支援実施後に1回、家庭訪問や事業所へ来所してもらうことで、振り返りや家庭での困り感の相談などを聞く相談日を設けている。	事業所が相談可能日と、ご家族の都合ができるだけ合うように今後日程調整の仕方等を検討していく。
2	地域の保健、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えている事。	福祉サービスを利用するにあたっての支援会議だけでなく、施設訪問や保護者への支援会議の内容の共有、家庭での困りごとに関する相談の場にも、市町村の保健師や家庭児童相談員等に同席していただくようにしている。	北信県域以外の市町村に対しては、電話での情報共有が主な対応となっており、これまで同席していただく機会を設けることができなかった。今後は、それぞれの市町村と相談しながら、連携体制の構築を進めていきたい。
3	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先施設に配慮した支援が行われている。	個別支援計画に沿った支援を行うにあたり、訪問先施設のホームページで理念を確認したり、訪問先の先生の思いを直接うかがうことを大切にしています。訪問先にとっても安心して相談でき、支援が行える事業となるよう努めている。	支援の目的や重点ポイントを事前に明確にするため、簡単なヒアリングシートの導入について検討していきたい。ヒアリングシートを活用することで、カンファレンスの時間を短縮しつつ、より深い対話につなげるといった効果が期待される。一方で、記入する側の負担感や回答の質にばらつきが生じる可能性もあり、運用にあたっては慎重な検討が必要である。今後、導入の必要性や実施方法について、関係機関とも相談しながら判断していきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用希望者に対して、職員の配置数が足りない事。	保育所等訪問支援員が1名であり、ニーズに対応できていない現状がある	・現在新たに訪問支援員が配置できるよう、取り組んでいる。 ・保育所等訪問支援の際に、同事業所の作業療法士を同席させ、地域での保育園での支援の経験を積んでもらっている。
2	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行なわれていますか。	現在、相談員が1名体制であるため、訪問後の家庭訪問や来所による振り返り、保護者からの相談対応に時間を要しており、新たに家族支援プログラムを実施する時間の確保が難しい状況である。	今後は、家族支援プログラムの実施に向けて職員配置等の体制づくりや業務の見直し、関係機関との連携強化などを通じて、必要な時間の確保を検討していく必要がある。
3	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	現在、相談員が1名体制であるため、訪問後の家庭訪問や来所による振り返り、保護者からの相談対応に時間を要しており、新たに保護者同士の交流の場を設置する時間の確保が難しい状況である。	今後は、家族支援プログラムと合わせて、保護者のニーズの把握と実施可能な体制づくりに取り組んでいく。